

# 岡崎市立中央図書館事件

## 事件のあらまし

2010年5月25日、岡崎市立図書館の蔵書検索システムに満足せず、自身で作成したクローラを用いて図書情報を取得した結果、蔵書検索システムの閲覧が困難になり、その男性が偽計業務妨害容疑で逮捕されたという事件である。逮捕された男性自身がのちに事件についてまとめたサイト名から、Librahack事件とも呼ばれる。20日間の勾留と取り調べののち、業務妨害の強い意図が認められないものの、システムに障害が出ると予想することはできたと判断され、嫌疑なしではなく、起訴猶予処分となった。図書館のシステムの脆弱性や操作方法などについて、のちに論議を呼ぶ事件となった。

## この事件の問題点

- ・図書館の蔵書検索システムは旧式のもので、もともと不具合があった。(低頻度のリクエストでもアクセス障害が発生する)
- ・男性の作成したクローラは悪質なもの(攻撃の意図があるもの)ではなく、図書館の閲覧システムが特殊なものだったために問題が発生した。
- ・警察はプログラムがどのようなものかあまり理解せず捜査を進めた。

### 出典

- ・作者不詳. 岡崎市立中央図書館事件.  
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B2%A1%E5%B4%8E%E5%B8%82%E7%AB%8B%E4%B8%AD%E5%A4%AE%E5%9B%B3%E6%9B%B8%E9%A4%A8%E4%BA%8B%E4%BB%B6>, (参照 2020-07-11)
- ・中川圭右.Librahack. <http://librahack.jp/>(参照 2020-07-11)

## この事件から得られた教訓

逮捕された男性は自身でクローラを作成するなど、ある程度の技術を持っていたが、図書館のシステムの特殊なしくみによってシステム障害が発生することは予測できなかった（もしくは無視していた）。この点において、男性はよく調べてから行動するべきであった。自分の持っている技術を使うときには社会にどのような影響を及ぼすのか事前に把握しなければならない。

また警察は、男性を一般的なシステム攻撃者とみなして取り調べをしたため、のちに問題となった。これは警察の知識不足を表していると同時に、世間一般の科学技術に対する理解の基準を現代という時代に合わせて向上させていかなければならないということも示唆している。